

## 教育研究業績概要

氏 名 大津 廣子 ( )				
研究分野		所属学会等の名称		
基礎看護学 看護教育学 看護技術教育学		日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本看護歴史学会		
担当授業科目名				
看護学概論、生活援助技術論、診療援助技術論、看護管理・看護教育、ゼミナールⅠ・Ⅱ				
教育上の能力に関する事項				
事 項	年	概 要		
1 教育の実践例、教育に関する評価等 ・授業で工夫していること	2015	「授業を受けて理解できなかった内容や質問」については次回の授業の最初にパワーポイントを用いてフィードバックしている。		
2 作成した教科書、教材、指導書等				
①看護師国試状況設定完全予想問題集・2016年	2016	編著、大津廣子・小松万喜子ほか56名、成美堂出版。		
②看護師国試状況設定完全予想問題集・2015年	2015	編著、大津廣子・小松万喜子ほか56名、成美堂出版。		
③JACOT ライセンス教本	2013	共著、久保田洋一・荒木秀夫・大津廣子ほか7名、NPO 法人日本コーディネーショントレーニング協会、pp.34-36、2013。		
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等				
①日本看護科学学会社員（代議員）、2015～現在	2016	代議員を務める。		
②日本看護学教育学会評議員、2015～2016	2015	評議員を務める。		
③日本看護技術学会評議員、2014～現在 その他7件	2014	評議員を務める。		
職務上の実績（学術団体や社会等における活動）に関する事項				
事 項	年	概 要		
1 資格、免許、特許、受賞等				
①愛知県立大学名誉教授	2015～現在	任命権者；愛知県立大学長		
②愛知県立大学教授	2007-2015	任命権者；愛知県立大学法人理事長		
③岐阜大学教授	2001-2007	任命権者；文部大臣		
④中学校普通免許状	1980-現在	授与権者；中一級社会、愛知県教育委員会		
④看護師免許	1971-現在	授与権者；厚生大臣		
2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等				
①看護介護人材開発育成（国際貢献）プロジェクト委員	2009-2010	ベトナム看護師の人材育成プログラムについての検討を行う。		
②東アジアとの共生（看護人材の質向上）事業プロジェクト実行委員	2010-2012	東アジア地域の外国人向けの専門性の高い看護教育プログラムの構築を検討した。		
研究業績等に関する事項				
著書名、報告書名等	単・共著の別	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等
(著書)				
・看護師の熟練形成-看護技術の向上を阻むものは何か-	共著	2010	名古屋大学出版会	下野恵子・大津廣子、担当部分：第2章、第4章～9章。
・コミュニケーションと共に学ぶ基礎看護技術	共著	2009	メデイカルインタビュー社	大津廣子・岩脇陽子・滝下幸栄ほか10名、担当部分：編集責任者
ほか12編				
(報告書等)				
・				
・				
・				

学術論文 学会発表等の題名	発表者名	発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等
(学術論文) ・危険場面における看護学生と熟練看護師の注視の比較  ・占領期の看護技術教育-証言に基づく看護教育模範学院における看護技術教育-  ・学内実習における基礎看護技術の実施状況と指導方法 ほか 64 編	横井達枝・箕浦哲嗣・ <u>大津廣子</u>  滝内隆子・ <u>大津廣子</u> ・伊藤友美ほか 1 名  <u>大津廣子</u> ・佐藤美紀・滝内隆子ほか 1 名	日本看護技術学会誌・第 13 巻・第 2 号・pp.132-139, 2014.  日本看護歴史学会・第 27 巻・pp.99-109, 2014.  愛知県立大学看護学部紀要・第 19 巻, pp. 31-40, 2013.
(学会発表等) ・Effect of the Nursing Skills Coordination Training Program on the working posture of nursing students who perform bed making  ・基礎看護技術を担当している看護教員の個別性の認識  ・看護技術が「できる」ためのコーディネーション能力向上を目指す NSCOT プログラムの看護技術の評価 その他 90 件	新美綾子・ <u>大津廣子</u> ・荒木秀夫  新美綾子・ <u>大津廣子</u>  新美綾子・ <u>大津廣子</u>	ENDA & WANS CONGRESS 2015・2015・Hannover, Germany.  日本看護研究学会第 41 回学術集会・2015・廣島  第 34 回日本看護科学学会学術集会, 2014. 名古屋
(その他)		